

すべてのステークホルダーの皆様へ

JFE ホールディングス株式会社
代表取締役社長(CEO)

林田 英治

■ごあいさつ

皆様には平素よりJFE グループの活動に対しまして温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

■業績の概要

2016年度はグループの中核である鉄鋼事業にとって、前年度に続き非常に厳しい年となりました。この2年間は「中国」と「原料価格」に翻弄された年であったと言えます。中国経済減速の影響を強く受け、中国鉄鋼産業が輸出を大幅に増やした結果、国際市況は低迷を続け、ここ十数年来の最低を記録するに至りました。

2016年中盤から中国国内の景気刺激策の効果により、中国の鉄鋼輸出は若干減少してきており、国際市況も緩やかな回復基調に移行しました。しかし夏以降、鉄鋼の主要原材料である石炭(原料炭)価格が急騰し、鉄鋼事業は大幅なコスト上昇に直面しました。このため期中で業績予想を下方修正し、皆様には大変ご心配をおかけしました。

その後、販売価格の改善に精力的に取り組み、グループ全体では最終的に前年度を上回る業績を上げることができ、配当も前年度並みの水準を維持することができました。しかしながら、この利益の中には在庫評価益などの一過性の利益が含まれており、実態としては2016年度の業績は前年度を下回りました。



難局に直面する鉄鋼事業。
グループの総合力が試される

このような環境下、鉄鋼事業、および鉄鋼事業との関わりが深い商社事業は厳しい事業環境が続いていますが、経営の効率化や販売価格の改善に精力的に取り組み、今年度の業績改善を目指しております。

エンジニアリング事業に関しては、ここ数年堅調な国内事業の収益を基盤として積極的に海外事業を展開してまいりましたが、東南アジア地域におけるインフラ整備などのプロジェクトは思ったほどのスピードでは進んでおりません。結果、海外での受注は中期計画を大幅に下回っておりますが、このような状況下において重要なことは、着実に一つひとつのプロジェクトを進めていくことと考えております。

持分法適用会社である造船事業のジャパン マリンユナイテッドは、商船需要が停滞期に入り船価も低迷する中、収益的にも苦戦を強いられておりますが、コスト構造を改善し収益の確保に努めております。

■鉄鋼事業について

このようにJFE グループを取り巻く環境は厳しい状況が続くと考えておりますが、当社としては中核である鉄鋼事業の収益改善に最大限の経営努力を傾注する所存です。

具体的な施策としては、積極的な設備更新、人材育成・技能伝承など中期経営計画で掲げた施策を着実に進めており、課題であったコークス炉の改修も2018年中に完了する予定です。これによってコークスの完全自給化が可能となり製造コストの大幅な低減が実現します。

経営環境は厳しくとも設備の更新を積極的に進め、当社グループの強みである「技術」と「商品」に磨きをかけ、お客様から頼りにされる鉄鋼会社を目指してJFEブランドの拡充に努めてまいります。

また、人材に関しても技能伝承プログラムの充実や人材の多様化などを通じて、将来に向けた基盤整備を進めてまいります。特に、「ワークスタイル変革」を経営の重要課題と位置付け、すべての社員が働きがいを感じられ、その持てる能力を最大限発揮できる環境を整備してまいります。

■エンジニアリング・商社事業について

エンジニアリング事業はここ数年順調に成長を続けており、電力・上下水道分野を中心に運営型事業の展開も進んできております。ここにきてひとつの踊り場に直面している状況ですが、焦ることなく着実な成長を目指してまいります。

商社事業は鉄鋼事業の影響を色濃く受けることとなりますが、辛抱強く収益改善に努めてきた中国・アジアでの加工サービス事業が成果をあげつつあり、この路線を確実に進めていくことが当面の課題だと認識しております。



■財務的な課題

個々の事業の収益改善に加え、投資を着実に進めながらグループとして財務体質の改善を進めるために、資産圧縮などを通じてキャッシュフローを改善し積極的な設備投資と財務改善を両立させてきました。その結果、借入金を増加させることなくバランスシートが強化され、今中期の財務目標のひとつである、D/Eレシオ50%程度も射程圏内に入っております。

厳しい経営環境のため収益目標(経常利益、ROE)の達成時期は少し後ろにずれ込むかもしれませんが、その達成に向けた行動はゆるぎなく進めてまいります。

現在検討中の次期中期経営計画においても、財務の健全性を意識しつつ、企業の成長のための積極的な投資と株主の皆様へ報いる還元を両立を図ってまいります。

■コーポレートガバナンスの充実

コーポレートガバナンス(企業統治)充実のため、2015年度に新たに社外役員(社外取締役および社外監査役)が過半数を占める「指名委員会」「報酬委員会」を設置しました。社外役員の意見を経営に反映させることにより、公正性、客観性および透明性をより充実させる努力を継続しております。

また、2016年度より取締役会全体の実効性についての分析・評価を進めてきており、実効性評価において指摘のあった取締役会の構成の一部見直しを行うことと致しました。グループの中核である鉄鋼事業のJFEスチール社長は、従来から当社の取締役に就いておりましたが、指名委員会で議論を重ね、コーポレートガバナンスの一層の向上のために、JFE エンジニアリング、JFE 商事の2事業の社長も当社取締役に就任することとし、グループ経営のより一層の強化を図ります。これに伴い社外取締役

も1名増員して牽制機能の強化を図ります。また、同様に実効性評価において高い評価を得ている当社監査役会の機能をさらに強化するため、社外監査役を1名増員して5名で構成することと致しました。その結果、社外監査役比率は半数を超え、監査体制および機能の中立性、独立性がより高まりました。また、社外役員全体の比率も高まりました。

■終わりに

企業は多くのステークホルダーの皆様へ支えられて成り立っています。

JFE グループは、

- ◎技術力に裏打ちされたより良い商品と一貫したサービス・サポートを提供することで、お客様に選ばれるブランドを目指すとともに、原材料・資機材などの購入についてもお取引先様と協力して、強固なサプライチェーンを構築してまいります
- ◎グループ会社・協力会社を含め、JFEで仕事に携わる人たちにより安全で働きがいのある職場を提供して「人の力」を最大限発揮できる環境をつくってまいります
- ◎地球環境保全はもちろん、地域の活性化に取り組み、地域の方々と共に共栄を図ります
- ◎このような取り組みを継続することによって利益成長を図り、適切な還元を通じて、株主の皆様へ満足いただくべく努めてまいります

当社の事業を取り巻く環境は引き続き厳しいものと思われませんが、その中でステークホルダーの皆様のご期待に少しでも近づくべく、グループをあげて努力してまいりますので、引き続きご理解・ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。